

平成 28 年度 築港 総合相談窓口（ランチ）課題対応取組み報告書

報告書作成日：平成 29 年 3 月 31 日

活動テーマ	「地域関係者との連携強化と地域での身近な相談窓口の周知」
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居高齢者が認知症の進行で生活困難となる事例、家族も障がいを抱え介護力が弱い事例、深刻化してから表面化する事例等、地域に支援を必要としている高齢者が多数存在する。
対象	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に潜在する独居高齢者 ・障がいを抱える介護者
地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ・高層を含めた市営住宅が多く高齢化率が高い。 ・ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りCOとの繋がりも強い。
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に関わる地域関係者や関係機関との関係づくり。 ・高齢者が集うサロンや行事への参加による周知と出張相談会での相談窓口の多角化。
活動内容 (具体的取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事会や各種サロン活動に参加し、地域関係者との関係強化に努めると共に地域高齢者へのランチ周知に努めた。 ・ネットワーク委員会への毎月参加と民生委員協議会会議への参加。 ・退院後の支援を円滑にするため医療機関の意見交換会への参加や地域連携室との情報の共有など連携に心がけた。 ・包括の他、認知症初期集中支援チームや見守り相談室、障がい支援事業所に対しての連携と地域ケア会議への参加要請。 ・出張相談会の毎月開催の継続。 ・小地域ケア会議（港晴）を開催し、地域活動協議会会長、民生委員協議会委員長、ネットワーク委員長・地域見守りCO、自治会長、在宅医療介護連携推進相談支援室CO、病院医療相談員、区保健師等の参加があった。地域関係者、行政、医療関係者等が顔の見える関係を構築する事により、困難事例ケースに連携・協働して支援出来る体勢づくりが行えた。
成果 (根拠となる資料等があれば 添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加できていなかった港晴地域のネットワーク役員会への毎月参加や民生委員の会議への参加等をきっかけとして友愛訪問時のランチや介護相談会周知のチラシ配布や情報共有の機会が増え連携も深まった。 ・地域関係者や関係機関の地域ケア会議参加が増え、包括的な支援に向けての話し合いが出来た。 ・ランチ担当者の交替で地域住民・関係者との新たな関係づくりが必要であったが、各種地域活動への参加等で関係づくりの再構築ができつつある。
今後の課題	集合住宅での高齢化・独居化は深刻であり、地域関係者や関係機関と更なる連携協働体制の強化が必要である。また、地域住民に対する周知活動をより充実させることで相談対応の機会も増えると考ええる。
区地域包括支援センター運営協議会開催日（平成 29 年 7 月 10 日）	
専門性等の該当	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性（拡張性） <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性
今後の取組み継続に向けてのコメント（区地域包括支援センター運営協議会からの意見）	地域の会議、医療機関との意見交換会等にも積極的に参加され情報共有に努められていることは評価できます。また友愛訪問時の高齢者への相談会周知のチラシ配布など、今後も地域と連携した取組を継続して行い、相談窓口の多角化を実施していただきたい。